

災害統計グローバルセンター(GCDS)の定例会議を開催しました(2019/7/2-3)

テーマ：災害統計の整備、国際連携
場所： 富士通株式会社（東京・汐留オフィス）

2019年7月2日(火)、3日(水)の2日間に渡り、災害統計グローバルセンター(GCDS)の定例会議(東北大学災害科学国際研究所、国連開発計画(UNDP)、富士通株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社、ESRI ジャパン株式会社からそれぞれ関係者が出席)を開催しました。当研究所からは、小野裕一教授、佐々木大輔助教、田中秀実研究員、高阪加奈代研究員(いずれも情報管理・社会連携部門)が出席しました。

今回の会議では、現在、富士通株式会社を中心となって開発中の災害統計グローバルデータベース(GDB)に関し、出席者間で活発な議論が行われました。併せて、ネパールでのフィールド調査や世界防災フォーラム(WBF)での研究発表といった今後の取り組みの内容等についても、積極的な意見交換が行われました。

災害統計グローバルセンター(GCDS)では、引き続きUNDPや、富士通株式会社をはじめとする民間企業との連携を密に取り、世界の災害統計の発展と防災力向上に向けて、学際的・分野横断的に研究・活動を進めていきます。



会議の様子

文責：佐々木大輔（情報管理・社会連携部門）